

調査報告書

- 1 とき：2012年2月23日
- 2 行先：笹島小中学校
- 3 参加者：山口清明、政務調査補助員（浜田）
- 4 主な内容

2010年に新築開校した笹島小・笹島中の小中一貫校を視察調査した。

- ・ 建物は6階建てで、1階は低学年、2階は高学年、3階は中学生、4階は調理室などの実習室、5階はプール、地下に体育館。この体育館はバスケットコートが3面入り、シャワー室も完備され一般開放している。一般に貸し出し中は教室につながる廊下にシャッターがおろされ防犯対策している。
- ・ 土地柄、セキュリティがしっかりしている。
- ・ この学校は、他の学校と比べると建築費がかなり高い。
- ・ 2009年に新築開校した植田東小学校は生徒数796人、契約金額1,522,500,000円に対し、笹島は生徒数207人、契約金額2,272,200,000円となっており、贅沢すぎる、無駄遣い、との声も上がっている。
- ・ 全室冷暖房完備は立地的に仕方がないと思った。
- ・ 名古屋高速が前にあり排気ガスと騒音がひどい。中央柳橋市場に囲まれているので魚などのにおいも強い。窓を開けることができない環境。
- ・ ナチュラルカラーの木を使用した机、いす、床や壁は、素朴で明るい。
- ・ 全ての学年に「ワークルーム」があり、それぞれいろんな使い方をしていた。
- ・ 立派な体育館は一般に安く貸し出しをしていて、人気があり予約でうまっていた。
- ・ 他にも、地域交流スペース・文化国際交流理解室・そうだん室といった教室があり、生徒の言語の違いなどによる問題に対応している。
- ・ 校長先生が「帰国子女のための金持ち優遇学校、という人がいるが、地元の子どももいるし、父親が日本人のシングルマザーの子どもも多くなってきている。小中一貫校のモデル校として、理想的な教育をめざしている」とおっしゃっていた。生徒の清掃や片づけもしっかり出来ていた。少人数学級で先生と生徒の距離が近い。
- ・ 豪華絢爛といった印象はなく、充実した学校だと感じました。
- ・ よい環境での教育は贅沢ではなく、目標ではないだろうか？

- ・名古屋のすべての学校に導入させ、名古屋の魅力の1つにできないだろうか。



各学年に1つのワークスペースは、工夫をこらして使用されている



トワイライトルーム

ふれあい室



コンピューター室

歯磨き教育用の歯ブラシ消毒器